

文芸OGネットワーク通信

Vol.2.

2005年



〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内
文芸OGネットワーク 代表 百瀬 好子 TEL/Fax 03-3237-2681 発行 2005.2.26



共立祭展示会場風景

共立祭に参加

文芸学部が本館に移転して初めての共立祭が2004年10月16日(土)、17日(日)開催されました。

OGネットワークは、今回も大学祭実行委員会のご支援をいただき、共立祭に参加しました。

テーマは「先輩たちに続け! Part II」で、文芸学部卒業生の創作品の展示と即売会を中心に行いました。会場の1311号室には、多くの卒業生・在学生在が訪れ、創作品等の即売にも協力していただきました。

また、OGネットワーク設立の中心的存在だった市川和子さん(文芸学部教授)が生涯心を込めて制作された作品のうちの、いくつかの彫刻、デッサンが展示され、多くの方々が生前の姿を偲んでおられました。

創作品出品者

- ◎陶芸 仙葉 弘子(昭和33年卒)
湊 一子(昭和33年卒)
- ◎生花 斉藤 京子(昭和33年卒)
- ◎油絵 矢田 智子(昭和35年卒)
- ◎著書 百瀬 好子(昭和35年卒)
- ◎スタンドグラス
牛島 郁子(昭和35年卒)
- ◎絵葉書
今野美保子(昭和35年卒)
矢田 智子(昭和35年卒)
- ◎人形(ビスケットロール)
松本 千穂(平成4年卒)

即売会およびOGネットワーク役員によるバザーの売り上げ124,320円のうち上記出品者の方々から43,570円をご寄付いただきました。大変ありがとうございました。

掲示板

◎総会予定

2005年5月28日(土)

総会(I)

11:00~12:30

食事・バザー(昼食代1,000円)

12:30~13:30

総会(II)

13:30~14:30

文芸メディア研究集会(未定)

15:00~16:30

◎共立祭参加予定

2005年10月15日(土)16日(日)

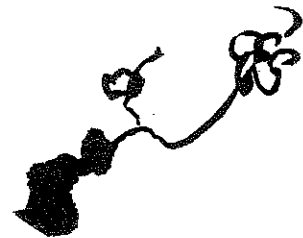
- ☆学生とのフリートーク
- ☆卒業生の活動紹介
- ☆創作品の展示・即売
- ☆バザー など

ご意見、ご提案また出品希望など、どしどしお寄せ下さい。

【問い合わせ先】

松島 良子

Tel: 042-726-0661



市川和子さんを偲んで

劇芸術コース資料整理報告

村上 智子(昭和38年卒)

市川和子さんの略歴と受賞

昭和38年3月共立女子大学文芸学部芸術学専攻造形芸術コース卒業
同年4月同学部副手。助手、専任講師、助教授を経て、平成11年4月教授に就任。

昭和45年5月第1回新海賞受賞。
浦和市展でも各賞受賞。平成10年11月、市川和子彫刻展開催。



OGネットワークの中心的存在でありました市川和子さんは、3年前ガンの手術を受けられてから、病氣と闘いながらお仕事も続けておられました。2004年7月10日に永眠されました。

市川さんは、昭和38年に文芸学部芸術学専攻をご卒業と同時に同学部に残り、研究・制作活動を始められ、学生の指導・大学の運営等に精力的に努力されました。

教鞭をとりながら、なお彫刻のプロとして作品を世に問うという活動もされましたが、まだまだ環境が整ってなかったように思われます。

私学存亡の危機が囁かれている現状で、学生・教員・卒業生が三位一体で、社会に開かれた躍動する学部でありたいという思いを抱き、卒業生の仲間を集めて、共立女子大学文芸学部OGネットワークを立ち上げました。最後のライフワークといっても過言ではありませんでした。

2003年秋の共立祭には、市川さんが中心となって卒業生の活躍を展示し、社会人としての豊かな経験を持った卒業生と、社会に巣立とうとする学生との交流会を開催し、在校生から好評をいただきました。

市川さんは常に意識的な女性でありたいという考えをお持ちで、なりふりかまわない人間はお嫌いでした。唯美主義というのでしょうか、女の生き方に美を求められていました。

病氣になられてからも弱みを見せず、抗がん剤治療を避けて頑張っておられました。一昨年の春には、「足に浮腫が出たのよ」と矯正用の靴下を履き、「膝が痛くなって、電車に乗ったとき、初めて座りたいと思うようになったのよ」「ちょっと歩くのがつらいから杖を持ったわ」「授業だけは休めないから、家からタクシーで通っているの」とおっしゃっていました。それも5月までで、体力の消耗が激しく6月に入院。7月初めに退院されましたが、7月10日に旅立たれました。

市川さんの生きる美学、強靱な精神力には、私たち一同、感服いたしておりました。

市川さんは、愛してやまない文芸学部の将来を思いつつ旅立たれたことと思いますが、少しでもその遺志を継ぐべく、OGネットワークも頑張りたいと思います。

心からのご冥福をお祈り申し上げます。

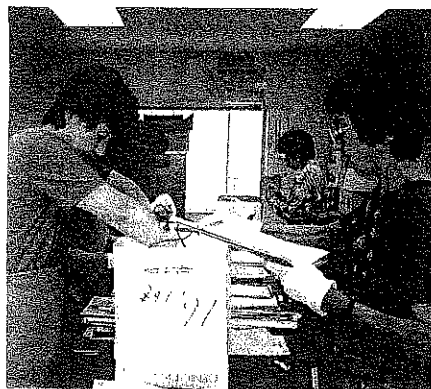
8月第1回目の顔合わせがあり、3号館大学院棟5階にある資料室の掃除から始まった。役員会の後でもあり15名ほどが参加。いささか埃まみれになっていた研究室を元の形に戻す。数は力であることを実感。9月から、積み上げられてあったプログラムの袋を年毎にまとめ、ダンボールに収めた。その後、月毎に区分けしていき、5年間のプログラム、チラシをまとめた。さらに5年間分をこの3月までにまとめたといっている。それからは、劇団別に揃える本格的な整理が待ち構えている。

近・現代劇に関するこのような資料をそなえているのは、関東では早稲田大学の演劇博物館、関西では立命館大学のアートセンターだけだそう。そう聞くと自然に仕事にも力がこもるというものである。

火曜日と土曜日、1時半から3時半まで、来られる人が、来られる時間に集まる、ということを進めている。3ヶ月で延べ120人が参加したことになる。月1回でも2回でもかまいません。関心のある方は是非一度のぞいて下さい。

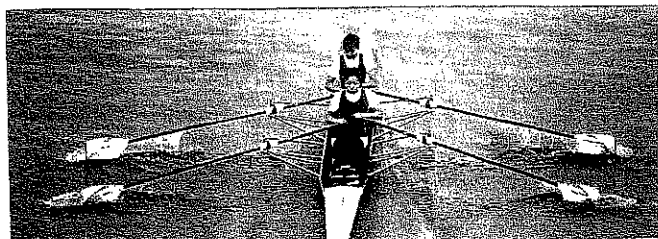
多田 久恵

Tel : 042-421-9767



作業風景

サークル探訪 立端艇部



現在、共立女子大学には、文科系から体育会系まで、56のサークルがあるそうだが、その中でも昭和23年、創部という長い歴史を持ち、現在も活動が続けられている端艇部の様子を部長の佐藤宏美さん（文芸学部日本文学専攻3年）に伺った。

大会に出るとき以外は、毎日が合宿と言っても良いくらい練習の日々。月曜の夜集合して、火曜日から日曜日まで合宿。学校のある日は朝4時から1時間半ほど練習して学校にいき、休みの日は6時起床で2時間～3時間練習。木曜の午後だけがフリータイムになっているという。

競技の種類は、
一人乗り シングルスカ
二人乗り 2本オール ダブルスカ
1本オール 舵なしペア
四人乗り 舵つきクワッドプル(ボックス付)
八人乗り エイト(ボックス付)
などあるが、部員が5名なので、出られる競技も四人乗りまでである。定期大会は、東日本級(1000m)と全日本級(2000m)がある。

去年は、東日本級にはダブルスカとペアに、全日本級では四人乗りに出場した。

昔は東大看護学部のボート部との定期戦が行われていたようだが、今

はない。現在関東女子大学ローリングクラブに加入しており、女子ボート部間の交流を行っている。

毎年、5月頃には東京医科歯科大学、都立大学、日本医科大学、共立女子大学の4大学合同の学内ボート大会を行っているとのこと。

今後の目標はインターカレッジで決勝まで進出することだそうである。

毎年5月の試乗会で、新人勧誘を行っているが、最近立ち上げたホームページから効果が出ているようだ。

http://www.geocities.jp/kwu_bc/

北海道の僻地に暮らす 水野恭子

私は現在北海道東部、サロマ湖とオホーツク海に面した湧別町に住んでいる。海と湖が両方目に飛び込む砂嘴からの眺めは実に雄大だ。今は流水が海を覆う。雪原状に敷きつめたかと思えば、所々にポカリと浮かんだり、沖合いに一直線に並んだり、日々いや時々刻々様相を変えるこの流水が去ると、春が兆す。

故郷の北海道に戻って結婚し30余年。教員の夫と網走支庁各地を転勤して来た。ここ10年余りは慌ただしい僻地小中巡りが続く。赴く先々何処も、住まいは幸運にも海、山、川、湖、丘の美しい風景のただ中。とれたての海山

の美味も口に入る。酪農、畑作、漁業に明るく生きる人々も目の当たりにする。道東の魅力の再発見の僻地暮らし。不便さ、淋しさ以上に、私には心身癒され励まされる日々だ。知床の玄関口、斜里町郊外での2年間は、斜里岳や知床の山々を校舎隣接の自宅の窓から朝夕眺め暮らした。特に雪化粧の山の美しさは格別だ。一時期、小一のR子の通学付き添い役をし、その家族T家の暮らしを知る。両親のT夫妻は首都圏の出身。学生時代に旅した知床に惚れて斜里

岳中腹に住みつき、養鶏の傍ら、牛、豚、羊を飼い、無農薬で野菜も作る。夏は知床の海に降りて泳ぎ、布海苔も採る。冬は、グラウンドに水を撒いて出来上がる学校リンクでスケート。書を読み、文を綴り、ベートーベンを弾きたくて子供と一緒にピアノも習う。Tさんの暮らしは何と心豊かだろう。「家で鶏を絞めたらね、お腹から卵がでてきたさ」など語るR子に大草原のローラを重ねる。山では見たこともない川を恐がるR子と手を繋いで渡った橋。二人で見上げた日々高くなる甜菜糖の収穫の山。R子との初冬のひとときは、いつまでも胸に鮮明だ。Tさんからは今も、季節の便りと共に丹精の卵や肉、燻製等が届けられる。

(昭和46年卒)



自宅の庭から斜里岳を望む

☆卒業生の活動状況

◎牛島郁子さん(昭和35年卒)

☆文京学院大学・文京学院短期大学の生涯学習センターでステンドグラス講座(土曜日 13:00~15:00)

☆練馬区南大泉区民会館でステンドグラス教室(木曜日 13:00~15:00)

問い合わせ先

〒178-0064

東京都練馬区南大泉 2-24-11

Tel : 03-3925-8963

Fax : 03-3925-8084

◎松本千穂さん(平成4年卒)

☆創作ビスクドール教室アトリエ 東京都文京区白山 5-12-3

エンジェルズガーデンリアンジェリ 問い合わせ先

E-mail : angeli_chiho@ybb.ne.jp

090-6318-2828

ホームページ : http://www.geocities.jp/angeli_chiho

☆アートマスターズスクール展

2005年2月15日~20日

場所 : インタースペース OJI

中央区銀座 5-12-8

王子製紙株式会社 1F

◎矢田智子さん(昭和35年卒)

☆所属する白日会の絵画展が東京都美術館(上野)で開催される。80号の大作を出品する。

会期 : 3月6日~4月4日

☆5月 : 萌葱展(ギャラリーヨコハマ)

6月 : 白の会展(銀座のギャラリー杉野) 白日会支部絵画展に出品予定

問い合わせ先

〒225-0021

横浜市青葉区すすき野 1-9-16

Tel : 045-901-1105

歌集『春もみぢ』より

花びらのゆくえは知らず葉桜に

なりて老樹は息をひそむる

台風の去りたる後の閑寂を

切り裂くごとく夕蟬の鳴く

そばからの枕に夢を乗せてみる

早世したる母のことなど

赤き糸の色褪せるとも見捨てぬと

不器用な夫が饒舌になり

杉山由枝(昭和三十五年卒)



地方からの発信

永田迪子(昭和37年卒)

共立を卒業後1年間短大の副手として勤め、同郷の主人と結婚。35年間、京都で専業主婦として過ごしました。子育てや主人の仕事の手伝いをしながら、いろいろなことに手を出してきました。

子どもの手が離れる頃からですから30年以上になるでしょうか。手芸の押絵に夢中になりました。小はハガキから大は羽子板、衝立、屏風、額物など沢山の作品を作り、お祝いやプレゼント、外国人へのお土産に役立てました。

10年来、蓮の花にはまっています。夏になると、カメラ片手に京都、大阪、鳥取、福井県南条町、行田市、千葉、府中市、上野公園等に足をのびました。

去年は、真夜中も時間差で蓮の「四日の命」を写してみました。

写真を写すだけでは飽き足らず、庭で茶碗ばすを鉢で育てました。多分これは一生続けることになるでしょう。

3年前、主人の停年退職を機に、私たち2人の郷里である鳥取に帰ってきました。

今は、90歳近い母の介護をしながら、自分たちの老後を見すえているところです。

このたび、文芸OGネットの立ち上げを知り、田舎にいて、鳥取、島根、岡山周辺の方々と手をつなぎ、勉強会をし、東京とも情報を交換しながら、輪を広げていけたらと願っています。

「通信」は会員相互の情報交換の場です。どうぞお気軽にご利用下さい。生活体験・旅・趣味・社会情報・介護・老後・悩み・相談等、積極的な寄稿をお待ちしています。

◆ネットワークの一層の充実・発展のためにご意見・ご感想・ご提案等をお聞かせください。(よ)

編集後記

- ◆会員の皆様如何お過ごしですか。「文芸OGネットワーク通信」第2号をお届けします。ご協力頂きました方々に心より感謝致します。
- ◆会報の名称を変更しました。ご了承の程お願い致します。
- ◆「文芸OGネットワーク